

平成 28 年度すこやかメールマガジン 第 498 号【読書のススメ】 6 月 23 日配信

みなさんこんにちは(*^_^*)

第 496 号【アンパンマンから学ぶ】に対して、「今日のアンパンマンの話、すごく考えさせられました」「アンパンマンは、人間愛というものを教えてくださいね」「アンパンマンを通じて、金子みすゞの『みんなちがってみんないい』とか、親鸞聖人の『許されざる者が許される道』などまで思いが膨らむ素敵なメールでした」などたくさんのお寄せいただきました。ありがとうございました。

ところでみなさんは、こんな経験をしたことはありませんか？

台所で料理をしている時に、ふと見ると我が子が本を読んでいる…。

ゲームをしているよりもなんだかとっても嬉しい姿です。

ところが、「ご飯だよ！」と、言っても、子どもの返事はありません。

「ご飯だよ～！！」と、少し声を大きくしてみてもダメ。

「ちょっと！返事ぐらいしなさいよ！！」それでも反応せず…。

結局、そばに行き肩をトントンする。そこで我が子がハッとしてやっとなり向き…。

こうしたことについて、全国学校図書館協議会の栗屋真奈美先生は、

「…それは、知らんぷりをしているのではなく、『ぼく』『私』が主人公になって本の中を旅したり、動物になって人間を観察したりしているときなのです」

と、お話しています。(毎日新聞 H28.6.16 付「本はともだち」より)

なるほど！

自分自身が主人公になっているとき…。そういうことだったんだなあ、納得しました。

さて、第 62 回青少年読書感想文全国コンクールの作品募集が始まっています。各学校では、「読書感想文」を夏休みの課題として出すところも多いようです。店頭でも既に「課題図書」のコーナーが設けられてきています。

<小学校低学年の課題図書>

○ 「ボタンちゃん」(小川陽子作・PHP 研究所)

コロコロコロ、と子供部屋の床を転がっていくボタンちゃん。アンナちゃんに忘れられて悲しんでいるおもちゃたちを元気づけます。赤ちゃんだったころを思い出して、自分の成長を感じるかもしれません。

○ 「ひみつのきもちぎんこう」(ふじもとみさと作・金の星社)

ゆうたのきもちつうちょうは、あと一つで黒コインが満杯。優しくしたいのに意地悪をする【うそきもち】も、「えい！」と勇気を出せば【ほんまきもち】に早変わり。「チャリーン」とすんだコインの音が聞こえてきて、心が温かくなります。

○ 「みずたまのたび」(アンヌ・クロザ作・西村書店)

もし、自分がたった一粒のみずたまだったら？地上にいた自分自身が、空から地球を見下ろしていたり、地中から生き物たちを見上げていたり…そんな不思議な感覚を味わうことができます。

○ 「アリとくらすむし」(島田たく写真・文・ポプラ社)

チョウの幼虫ってアリが育てるの？コオロギのお母さんはアリ？小さな生き物がくらす大きな世界に、驚きがいっぱいの写真絵本です。

どれもこれも、興味深い本ばかりですね。

更に、栗屋真奈美先生は、

「本を閉じて『ぼく』『私』に戻ったら『〇〇のところよかったよ。かっこよかったね。でも、現実のぼくだったら…私だったら…』って話しかけてみましょう。主人公とのステキな言葉のやりとりで、その本がますます好きになるでしょう」とも、言っています。

読書感想文を書くためには、まずは素敵な本と出会うことが大切です。そして、自分の生活に照らし合わせて、具体的に考えることも大切なのですね。

お子さんに読みたい本を選ばせるのもいいですが、意外と本を自分で選ぶということ自体が難しい場合があります。簡単でもいいので、「この本はね～」などと、お子さんに本の紹介をしてみてください。きっと「読んでみたい！」と目を輝かせることでしょう。

まだまだ不安定な天気は続きそうです。

お子さんと一緒に、「ぼくだったら…」とか、「お母さんだったら…」などと、「想像の翼を広げて」楽しんでみてください。【A】